



研修生・修了生の展覧会情報や
新世紀工芸館の様々なイベント
をチェック！

修了生の声



第 6 期
陶芸コース修了生
増原 嘉央理 さん

1985 年 北海道 出身
2004 年 英国留学
2008 年 武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科 陶磁専攻 卒業
2010 年 瀬戸市新世紀工芸館 陶芸コース 修了
現在 (公社)日本工芸会 正会員・日本陶芸美術協会 会員

2008 年 「平成 19 年度 武蔵野美術大学卒業制作」陶磁賞
2009 年 「めし碗グランプリ展」審査員特別賞(同 2012)
2010 年 「第 40 回 ながさき陶磁展」インテリア・工芸部門 最優秀賞
2011 年 「第 21 回 日本陶芸展」入選(同 2015,2017,2019)
2012 年 「そば猪口アート公募展」安曇野市教育委員会賞
「第 5 回 菊地ビエンナーレ展」入選(同 2021)
2014 年 「第 2 回 陶美展」入選(同 2016(2 作品),2017,2018)
2015 年 個展(銀座 黒田陶苑 / 東京)以降毎年開催
2016 年 「第 56 回 東日本伝統工芸展」朝日新聞社賞
「日本陶磁協会現代陶芸奨励賞 北海道展」現代陶芸奨励賞
「伊丹国際クラフト展」審査員賞
「第 63 回 日本伝統工芸展」入選(同 2018,2020)
2017 年 「日本陶磁協会賞受賞作家展」(銀座和光 和光ホール / 東京)
2018 年 「第 58 回 東日本伝統工芸展」入選(同 2020,2021)
2019 年 「第 66 回 日本伝統工芸展」日本工芸会新人賞
「第 7 回 陶美展」高島屋賞
「第 59 回 東日本伝統工芸展」奨励賞
2020 年 「増原嘉央理 高橋奈己 -表現の形-展」(瀬戸市新世紀工芸館 / 愛知)
2021 年 「第 12 回 国際陶磁器フェスティバル美濃」陶芸部門 入選
「第 15 回 パラミタ陶芸大賞展」大賞



向館展示棟企画展
「増原嘉央理 高橋奈己 -表現の形-展」



■ 研修期間はこうでしたか。

得たものは大変多かったです。その中には瀬戸市、新世紀工芸館でなければ得られなかったものもあります。迷いや困難な事があっても周囲の方々やスタッフの皆様をサポートで乗り越える事が出来、作家として作品を発表する様々な機会を与えていただきました。

■ 今どんな制作活動(作家活動)をしていますか。

百貨店やギャラリーにて個展または企画展等で作品を発表させていただいております。

■ 当館での研修を考えている方へ。

カリキュラムを設けていないところが最大の魅力ではありますが、その分、作家として自主性や自己管理が求められる環境だと思います。ご自身が学びたい事、やりたい事が決まっているのなら最良の環境ではないでしょうか。新世紀工芸館での研修経験は長い作家人生の中で大きな経験となると思います。

瀬戸市新世紀工芸館

陶芸・ガラス工芸コース 研修制度案内 2024

Seto Ceramics and Glass art Center

Ceramics / Glass course Training program Information 2024

瀬戸市新世紀工芸館 Seto Ceramics and Glass Art Center

◎ 交通アクセス

- 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」から南東へ徒歩約 7 分。
- 東名高速道路「名古屋 I.C.」から車で約 3 0 分。
- 東海環状自動車道「せと赤津 I.C.」から車で約 1 0 分。

◎ 問い合わせ先

〒489-0815 愛知県瀬戸市南仲之切町 8 1 番地の 2
TEL: 0561-97-1001 FAX: 0561-97-1005
URL: <http://www.seto-cul.jp/new-century/>
E-mail: sinsei@gctv.ne.jp



第 12 期
陶芸コース修了生
小林 由依 さん

1990 年 愛知県春日井市 出身
2009 年 愛知県立瀬戸窯業高等学校 卒業
2014 年 愛知県立芸術大学 卒業
2016 年 瀬戸市新世紀工芸館 陶芸コース 修了
現在 瀬戸市内にて制作

2015 年 「koba 個展」(窯横カフェ / 愛知)
2019 年 「koba 個展」(Galerie LA CACHETTE/ 愛知)

■ 研修期間はこうでしたか。

就職活動もせず大学院に行けるほどのかを見出せなかった私は、卒業後に新天地として瀬戸市新世紀工芸館で 2 年間の研修生活をおくりました。新世紀工芸館での研修は課題や指導はなく、自主的な制作を支援してくれました。瀬戸窯業高等学校(現 瀬戸工科高等学校)専攻科や他美術系大学を卒業してきた人、ガラスという陶芸とは違った素材を扱う人たちも研修生として距離も近く、ときには作家として第一線で活躍されている方がワークショップやレクチャーに特別講師として来てくださいました。海外からのレジデンス作家が訪れたときには一緒の空間で制作をし、2 年間で多くの知識と機会と刺激を与えてくれました。

■ 今、どんな制作活動(作家活動)をしていますか。

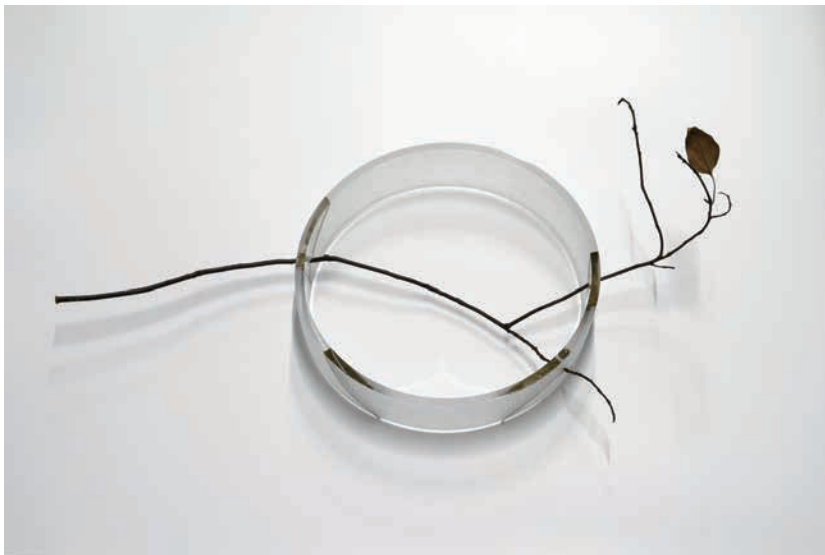
研修修了後も瀬戸を拠点として活動しています。市内には窯業関係の原料や道具の販売店があり、貸工房も多く、陶芸が続けいく環境が整っています。



第 10 期
ガラス工芸コース修了生
植村 宏木 さん

1990 年 北海道札幌市 出身
2010 年 秋田公立美術短期大学 工芸美術学科 ガラスコース 卒業
2014 年 瀬戸市新世紀工芸館 ガラス工芸コース 修了
2019 年 名古屋芸術大学 大学院 美術研究科 修了
現在 瀬戸市内にて制作

2018 年 個展「あえかに秘めるものへ」(JR TOWER ART BOX/ 北海道)
「富山ガラス大賞展 2018」(富山市ガラス美術館 / 富山)
2019 年 「春爛漫 ポップ & モダン」(アートフロントギャラリー / 東京)
「collection/selection:10」(GALLERY CAPTION/ 岐阜)
個展「漂石と素糸」(蒲郡市博物館 / 愛知)
2020 年 「線に立つ」(Lights Gallery/ 愛知)



■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。

短期大学にてガラスを専攻したのち、美術の造形素材として歴史の浅いガラスを、瀬戸の主軸である陶芸を身近におくことでより広い視野から考えることができるのではと考えました。

■ 研修期間はこうでしたか。

研修内容を自ら計画していくため、必要なものを取捨選択し、いかに展示や発表をしていくか、作家としての地力を身につけることができると感じました。アーティスト・イン・レジデンスや、研修生の意向を汲んだワークショップやレクチャーなどによって、客観的な視点を得られる機会が多いです。

実験的な試みをする際に、陶芸のノウハウを参考にすることができ、周囲に窯業をはじめとしたものづくりに関わる企業も多く、素材や技術、道具、知識などが幅広く手に入りやすい環境だと感じました。

■ 当館での研修を考えている方へ。

これから作家活動をしていきたいと考えている人にとって、周囲に自分の表現を自立させてくれるための環境が整っていることはありがたいことだと思います。各自で設定した目標に向かって自分が何が必要かを考えられ、試すことができる環境ではないでしょうか。作家としての基盤を作るには適している環境だと考えています。



第 5 期
ガラス工芸コース修了生
藤掛 幸智 さん

1985 年 愛知県 出身
2005 年 秋田美術工芸短期大学 工芸学科 ガラス工芸専攻 卒業
2006 年 愛知教育大学 教育学部 造形文化コース ガラス専攻 科目等履修生 修了
2009 年 瀬戸市新世紀工芸館 ガラス工芸コース 修了
2011 年 金沢卯辰山工芸工房 研修者 修了
現在 愛知県個人工房にて制作

主な作品収蔵先
ヴィクトリア&アルバート美術館(イギリス)
レッテガラス美術館(ドイツ)
Alexander Tutsek Foundation(ドイツ)
コーニングガラス美術館(アメリカ)
卯辰山工芸工房、黄金崎クリスタルパーク
富山市ガラス美術館 など



■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。

毎日自由に制作に取り組み、ガラスと向き合う時間を充分に得ることができたため、新世紀工芸館を選びました。

■ 研修期間はこうでしたか。

定期的に講師の方を招き、講義や講評をしていただく機会もあるため、自分の作品を冷静に見る事もでき、多くの刺激を得て、また制作に励む、そんな充実した 2 年間で過ごしました。

■ 今、どんな制作活動(作家活動)をしていますか。

自身の工房を立ち上げ、制作をはじめました。発表活動は、国内ギャラリーでの展示や海外のアートフェアにて発表しています。

瀬戸市新世紀工芸館

日本遺産に登録され日本六古窯のまちとして名を連ねる愛知県瀬戸市は、平安時代後期から続くやきもの産地として周知されてきました。

また、瀬戸地域の陶土層には、ガラス工業の原料となる珪砂が豊富に含まれており、明治時代以降は国内有数の産出地として評価されてきました。このように、歴史ある窯業地としての伝統と恵まれた原料を埋蔵する条件が整い、今日でも瀬戸市域には陶磁器を生業とした窯元の他、陶芸・ガラス工芸の作家が精力的に活動する工房や店舗などが数多く存在しています。こうした制作に適した環境の中、芸術、文化に包括される美術工芸の発展と伝統的な技能や技術を修練すべく人材育成を掲げ、次世代へ引き継ぐ作品を展示し、広く普及活動に繋げ、陶芸・ガラス工芸の振興を図ることを目的として瀬戸市新世紀工芸館を開館し、20余年の歴史を誇ります。



研修制度

陶芸・ガラス工芸の基本的かつ専門的知識や技能・技術を修練するための人材育成事業として研修制度を取り入れています。当館での研修制度は、研修生が自らの目標に沿った年間の研修計画に基づいて、自由な創造の場として2年間の制作活動を行うことができます。

館内には、年間を通して研修生が制作した作品を展示・販売するギャラリーが設けられています。その他に「せともの祭」や各種イベント等への出品販売、そして年度末には当館の展示棟にて研修生修了作品展を開催するなど、作家活動の成果を発表する機会が数多く企画されており支援事業も充実しています。また当館では、陶芸・ガラス工芸にかかわる市民向け体験教室を実施しており、研修生はその補助作業を担当し普及啓発事業について学ぶ機会があります。



小人数ならではの環境で工房設備をフルに活用し、技術に磨きをかける。

特別講義

研修制度の一環として、研修生からのアンケートを基に陶芸・ガラス工芸を問わず各分野の作家やアーティスト、学芸員やギャラリストなどに依頼し、ワークショップやレクチャー、作品の講評など様々な方法で特別講義を開催しています。その他、工房見学や展覧会鑑賞などの館外研修も年間を通じて行っています。



アーティスト・イン・レジデンス

「瀬戸国際セラミック&ガラスアート交流プログラム」は、国内外の陶芸・ガラス工芸の優れた作家を招聘する瀬戸市のアーティスト・イン・レジデンス事業です。招聘する作家は当館を拠点として、1か月以上にわたり研修生と同じ工房を使用して制作を行います。国内外の第一線で活躍する作家と共に活動し交流を深めることにより、陶芸・ガラス工芸に対する新たな展望が生まれ、国際感覚豊かな作品表現に触れることができます。

研修修了後



研修修了後は、市内外で貸工房を利用し個人で作家活動を継続する例、陶磁器・ガラス関係の企業や工房に就職する例など様々な実績が報告されています。その一方で、当館では修了生を対象とした工房設備のレンタルを導入しており、制作環境の提供も行っています。また瀬戸市では、「ツクリテ創業支援事業」を立ち上げ、ものづくりを目指す作家を対象に市内での創業や事業相談を受け付け、工房の家賃や改修費の補助など様々な支援策を提供しています。



近年の特別講師（順不同、敬称略）			
井上 剛（ガラス作家）	大長 智広（京都国立近代美術館研究員）		
入澤 聖明（愛知県陶磁美術館学芸員）	高橋 秀治（豊田市美術館館長）		
板橋 廣美（陶芸家）	谷口 嘉（ガラス作家）		
内田 鋼一（陶芸家）	中川 佳宣（美術家）		
扇田 克也（ガラス作家）	中田 ナオト（陶芸家）		
加倉井 秀昭（ガラス作家）	長江 重和（陶芸家）		
加藤 令吉（陶芸家）	拝戸 雅彦（愛知県美術館館長）		
唐澤 昌宏（国立工芸館館長）	早崎 志保（ガラス作家）		
木曾 志真雄（陶芸家）	松永 泰樹（陶芸家）		
城戸 保（写真家）	道川 省三（陶芸家）		
神代 良明（ガラス作家）	宮路 雅行（インストーラー）		
小島 久弥（美術家・ギャラリスト）	吉川 正道（陶芸家）		
佐々木 雅浩（ガラス作家）	和田 奈津美（中国茶インストラクター）		
佐々木 類（ガラス作家）			



設備

2年間の創作活動拠点となる『工房棟』は、1階から4階まで陶芸・ガラス工芸分野における設備が整っています。各工房にはそれぞれスタッフが常駐しており、皆さんの研修期間における制作や作家活動のサポートを行っています。

陶芸工房



電動ロクロ、土練機（真空・常圧）、セラローラー

- ・研修生には、それぞれ作業机や電動ロクロ、ストックスペースなどが割り振られています。
- ・空調設備も整い、快適な空間で制作ができます。

ガラス工房



ガラス溶解炉（クローズドポッド）、グローリーホール、ベンチ、徐冷炉、電気炉（8kw、10kw、22kw：各1基）、ガレージ、小判切断機、平盤研磨機、縦軸研磨機、ベルトサンダー、ウォーターサンダー、サンドブラスター、アーク溶接機など

- ・グローリーホール、作業用ベンチは各3基あり、同時に作業が可能です。
- ・電気炉は吹き場と同じ室内にあり、ピックアップや徐冷にも使用できます。

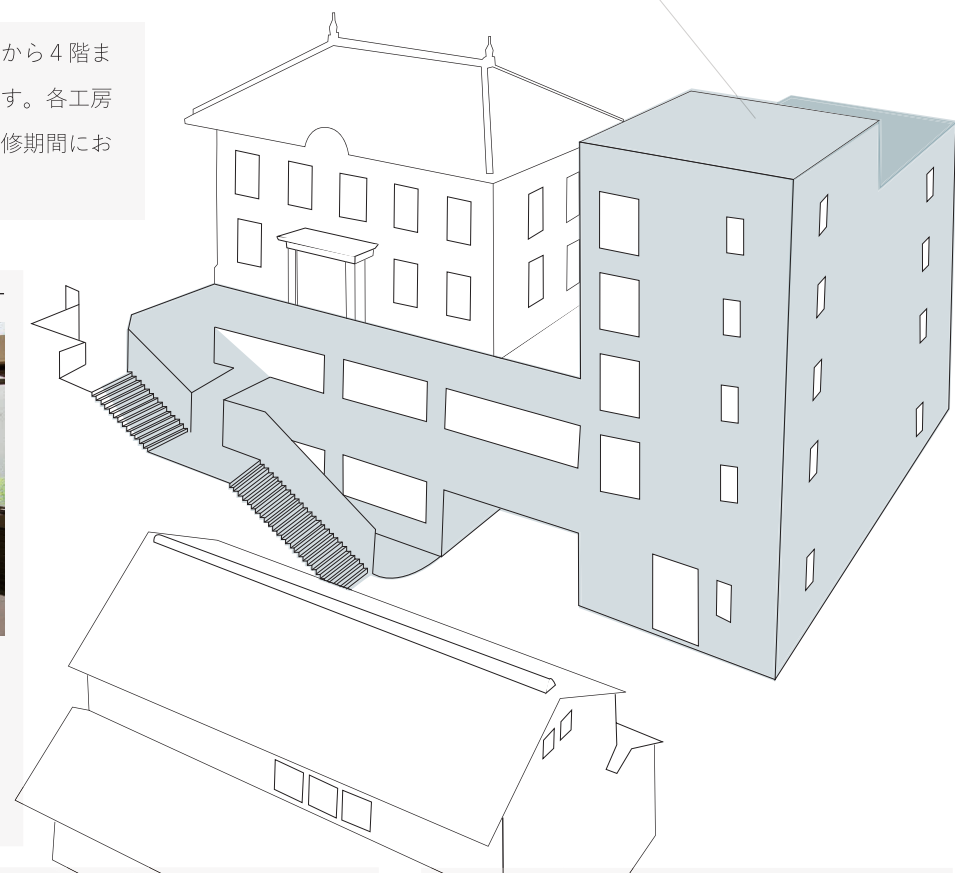
窯場



ガス窯（2.0㎡：1基、0.5㎡：1基）、電気窯（10kw：2基、15kw：1基）など

- ・2.0㎡のガス窯があり、大物の焼成も可能です。
- ・ガス窯焼成時には、研修時間の夜間延長を認めています。

Studio Building



石膏室



真空攪拌機、石膏ロクロなど

釉吹付室

吹付用スプレーガン、吸引機、コンプレッサー

施釉室



ポットミル、スタンパーミル、攪拌機など

- ・施釉の他、木工、原型制作など様々な作業に使用できます。

現役研修生の声

■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
瀬戸窯業高等学校専攻科修了後、独立して自身のアトリエで制作することを考えていましたが、やきものに関わる制作環境の問題で、自身の今後を見つめる時間を過ごす中で知人からの紹介で新世紀工芸館の研修環境を知り、あらためて2年間という決められた期間の中でしっかりと陶芸に集中して制作を行いたいという気持ちから、研修生として入館を決めました。

■ 今後の展望をきかせてください。
1人で活動しては得られない多くの気づきや新しい発見が研修期間の中でたくさんあります。制作技術や設備に慣れてもらったりサポートしてくれる環境であり、その他にも多くの出品の機会や特別講義で様々な作家さんに出会えるのも工芸館の特徴です。また周辺地域は制作に必要な原料や道具が豊富なこと、瀬戸という永いやきもの歴史・文化がある産地ならではの環境をととても有難く感じています。

■ 今後の展望をきかせてください。
優しい記憶や温かな気持ちを思い起させ、人々の心を豊かにする世界をコンセプトにより自分らしい表現を深めて、多くの方に「崔允静の作品」と認識してもらえすスタイルを確立させていきたいと思っています。これまでの経験や日々の様々な積み重ねから生まれるアイデアはまだまだまだたくさんあります。



1999年	韓国釜山東亜大学美術科彫刻専攻 卒業
2009年	愛知県立芸術大学大学院美術科グラフィックデザイン 修了
2021年	愛知県立瀬戸窯業高等学校セラミック陶芸専攻科 修了
2010年	アートギャラリー FINGER FORUM 創立
現在	アートギャラリー FINGER FORUM ディレクター&アーティスト活動



2020年 愛知教育大学研究生 修了
2020～2023年 磐田市新造形創造館 吹きガラス工房専任講師を担当

- 2019年 「愛知教育大学卒業制作」最優秀賞
「国際ガラス・金沢2019」入選
- 2023年 「第9回現代ガラス展 in 山陽小野田」入選

■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
カリキュラムがなく、目標に向けた自己課題や制作スケジュールを自身自身で計画して制作活動に専念できる環境というのが大きな特徴です。学校などでは課題制作など、複数の内容を同時進行で進めることが多くありますが、2年間という期間の中での絞りを絞って集中した制作を行いたいと考え、入館を決めました。

■ 今後の展望をきかせてください。
充実した設備の中、今は加工と吹きの仕事を中心に集中して制作時間を過ごしています。また、器などといったプロダクトの仕事にも、これまで以上に増して向き合う時間が増えました。一方で新世紀工芸館のガラス工房は、以前アーティスト・イン・レジデンス事業で招聘作家さんのアシスタントとして工房に入出入りしていたこともあったため、少し慣れ親しんだ環境という面もあります。

■ 今後の展望をきかせてください。
修了後は独立して自分の工房を構えたいと思っています。そのため2年間の研修期間では自身の基礎をしっかりと固めると同時に、ギャラリーやお客様など、様々な繋がりを作っていききたいです。

